

伝統をつなぐ 美しき神楽舞

古来から受け継がれる、日本の伝統芸能・神楽舞。宗像にある『八所宮』で神楽舞を奉納するのは、なんと高校生以下の少女たち。「舞うことで神様に仕える」という貴重な役目を担う彼女たちの活動内容や想いを取りました。

宗像の古社・八所宮で 伝統の神楽舞を奉納

宗像市の北東部、岡垣町との境にほど近い静かな山里に鎮座する『八所宮』。674年 日本の初代天皇とされる神武天皇によって現在の場所に祀られたと伝えられる、大変古い歴史を誇る神社です。日本國の始祖である、イザナギノミコト・イザナミノミコト・を含め、夫婦の神様4代8柱を祀っていることからその名が付けられたと言われています。



①お稽古の前には、みんな揃って神様に参拝 ②口紅やアイシャドウなど、より美しくなるようにメイクをする子どもたち。小さな子はお姉さんからメイクをしてもらいます

同社では元旦の歳旦祭(さいじんさい)を皮切りに、3月の春季大祭や11月の新嘗祭(にいなめさい)などさまざまな年中行事が開催され、中でも10月の第3土曜日・日曜日に行われる秋季大祭が有名。300年の歴史を持つ「古式大名行列(御神幸祭)」など、伝統的な祭事が氏子や地域住民の手によって今なお大切に受け継がれています。これらの行事では、神楽舞という神様に奉納す

るためには、奏される舞も披露されています。日本では古来から恵みを与えてくれる神々に対し、舞という形で感謝と祈りを捧げてきました。

八所宮で神楽舞を奉納するのは、小学生から大学生までの少女が所属し、神秘的な巫女の姿で美しくも

厳かな舞を奉納しています。この活動

が始まったのは昭和62年のこと。当時は巫女がいなかつたため、同宮では巫女に代わって神楽舞を奉納する「舞姫」を一般から募集して同

ラブが設立しました。それから30年以上もの長い年数にわたり、活動は脈々と受け継がれています。現在くらぶの代表を務めて舞の指導にもあたる立石優子さんに、詳しい活動内容や日頃のお稽古についてお話を伺いました。

「私たち八所宮のほかに、地域の文化祭や祭事などでも神楽舞を奉納しています。神楽舞は日本古来のさまざまな神楽歌に倣つて奉納するので

るためには、奏される舞も披露されています。日本では古来から恵みを与えてくれる神々に対し、舞という形で感謝と祈りを捧げてきました。

八所宮で神楽舞を奉納するのは、小学生から大学生までの少女が所属し、神秘的な巫女の姿で美しくも

厳かな舞を奉納しています。この活動

が始まったのは昭和62年のこと。当時は巫女がいなかつたため、同

宮では巫女に代わって神楽舞を奉納する「舞姫」を一般から募集して同

ラブが設立しました。それから30年以上もの長い年数にわたり、活動は脈々と受け継がれています。現在くらぶの代表を務めて舞の指導にもあたる立石優子さんに、詳しい活動内容や日頃のお稽古についてお話を伺いました。

「私たち八所宮のほかに、地域の文化祭や祭事などでも神楽舞を奉納しています。神楽舞は日本古来のさまざま



熱心に子どもたちへ振り付けや所作を指導する中村絵美先生。みんなぞの声に真剣に耳を傾けています



緩やかな動きの中にも、洗練された美しさが漂う神楽舞。子どもたちは「神様に一番近いところで奉納ができることが嬉しい」という気持ちで、丁寧に舞っているそうです



実際に神楽舞を奉納する八所宮の舞台で練習をする子どもたち。この他にも吉武地区コミュニティ・センターでも練習をしているそうです

ですが、全ての行事で私たちが披露する舞は『浦安の舞』というもの。これは昭和8年に昭和天皇がお詠みになられた歌(御製)を元に、昭和15年に皇紀2600年を祝福して作曲と振り付けされた神前神楽舞。代表的な巫女舞(巫女によって舞われる神楽の舞)の一つとしても知られています。人々の繁栄や五穀豊穣を願うほか、「浦安」とは『心安らか』という意味があるように『争いのない平和な世の中になりますように』という願いが込められた歌です。と立石さん。振り付けの「ひとつに」、この歌の意味や想いが表現されているそうです。

お稽古や地域行事を通じ成長する子どもたち

現在『八所宮お神楽くらぶ』には、小学2年生から高校3年生まで約10人の子どもが所属しています。地元の子がほとんどで、学校や地域の行事で神楽舞を目にして「自分もやってみたい」「友達が舞っているから私も」と

自発的に入会することが多いそうです。「当くらぶでは入部後『浦安の舞』のお稽古に専念して3年目にようやく神様の奉納舞を舞えるようになります。神楽舞とは神様のお姿を揃する」という大切な役目を担っているので研鑽を重ねて美しい舞を完成させなければなりません。当くらぶでは月に1~2回、秋季大祭など大きな行事の前には毎週末お稽古をすることがあり、回数が多いのでみんな上達が早いですね。それだけではなく、みんな神楽舞が好きで入会してくれるので飲み込みが早いんですよ。と立石さんが誇らしげに教えてくれました。

立石さんが『八所宮お神楽くらぶ』を立ち上げてからは、これまで八所宮の行事だけで奉納されていた神楽舞を地域の行事でも披露するようになりました。神楽舞は神様に奉納するものなので、どこでも披露できるという訳ではありません。それでも『八所宮お神楽くらぶ』では「赤間庄11ヶ村」総鎮守の神様である八所

宮を信仰する周辺地域の公共施設で舞を奉納してきたそうです。

「神楽舞という伝統的な神事が身近で行われていることを知つてほしいと願いを込めて、八所宮以外でも舞の奉納を始めました。もう二つの理由は、子どもたちの成長のため。地域のイベントで神楽舞をするよと子どもたちに伝えると、俄然やる気を出してお稽古に励むんですよ。家族や友人など、身近な人の前で舞が披露できることが嬉しいようです。親しい友のあたたかの人から『良かつたよ』などと声をかけてもらい、褒めてもらえることも子どもたちの成長に繋がっています。地域のみなさんごとに中村絵美さんといつ元巫女の先生が振り付けを指導しています。立石さんは神楽舞の講習会で中村先生と出会い、先生の美しい舞に惚れ込んで指導を依頼されました。扇子の持ち方や腕の上げ方など、細かい所まで熱心に子どもたちに指導され

ているそうです。

「これから何十年も先まで長くお神楽くらぶが続いていくことが私の願い。そのためには舞を奉納するたくさんの方や腕の上げ方など、細かい所まで熱心に子どもたちに指導され

てはいるそうです。

「学校の低学年のうちから参加しても

くらぶへの入会は随時受付中なので、興味がある方はぜひ左記までお問い合わせください。

**伝統を繋いでゆくため
舞姫を随时募集中!**

神楽舞のお稽古は、立石さんの他の子たちの舞を楽しみにしてくださっているようです。神様に仕えるという役割も大切に、これからも地域との触れ合いを続けていきたいと思ってます。

立石さんによると、地域のみなさんごとに中村絵美さんといつ元巫女の先生が振り付けを指導しています。立石さんは神楽舞の講習会で中村先生と出会い、先生の美しい舞に惚れ込んで指導を依頼されました。扇子の持ち方や腕の上げ方など、細かい所まで熱心に子どもたちに指導され

ているそうです。

「これから何十年も先まで長くお

神楽舞が続いていくことが私の

願い。そのためには舞を奉納するた

くさんの方や腕の上げ方など、細かい所まで熱心に子どもたちに指導され

てはいるそうです。

「学校の低学年のうちから参加しても

くらぶへの入会は随時受付中なので、興味がある方はぜひ左記までお問い合わせください。



八所宮お神楽くらぶ ～舞姫募集～



[年間スケジュール]

- 1月1日…歳旦祭(さいたんさい)
- 3月10日…春季大祭
- 10月第3土曜・日曜…秋季大祭
- 11月23日…新嘗祭(にいなめさい)

[練習]月に1~2回
(宗像)吉武地区コミュニティ・センターや八所宮にて

[対象]小学生から大学生

[問い合わせ先]
tel.090-8355-7735(指導者・くらぶ代表 立石)

